

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立東出雲中学校）

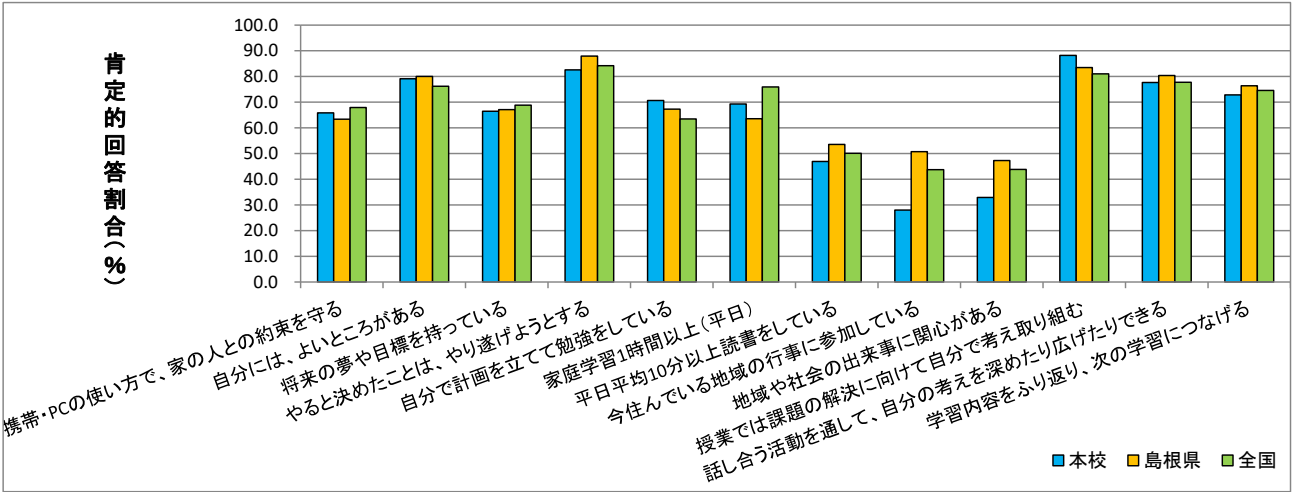
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○話し合いの話題や方向を捉えたり、それによって話す内容を考えたりする力が身についている。 ●文章に書かれていることを正確に読み取り、質問に対して適切に答える力が不足している。	・今後も引き続きグループでの話し合いや学級全体場で発表する機会を多く作り、「聞き手意識」「読み手意識」を涵養する。 ・文章や図表から読み取ったことを、条件に沿って文章化する機会を増やす。
数学	○基本的な計算問題等の反復学習をしていることが「選択式」「短答式」の正答率につながっていると考える。 ●問題に書かれていることを正確に読み取り、答えを「記述式」で答える力が不足している。	・記述式で解答する問題を解く機会を増やす。 ・記述式の問題をグループで解いたりするなど学習形態を工夫し、苦手な生徒も粘り強く取り組む機会を増やす。

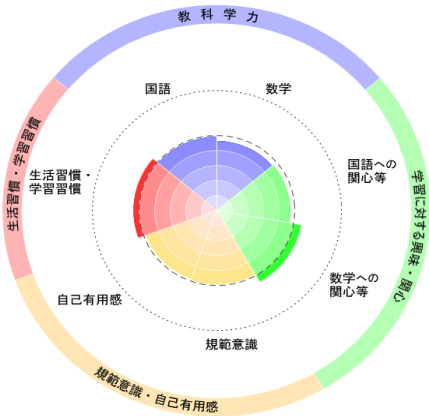
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○その日に学習したことを振り返ってまとめる家庭学習ノートの取組を始めたことで、「何をすればよいかわからない」という生徒が減り、家庭学習時間が増えたと考えられる。 ●コロナ禍の中、地域との交流活動が少なくなり、社会の一員として自ら進んで活動しようという意欲や関心が低い。	・総合的な学習の時間で地域への視野を広げる。 ・学校内で何か自分にできることはないか生徒が考える機会を、学級活動や生徒会活動の中で意図的に増やしていく。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・生徒自らが家庭や学校でICT機器やメディアを正しく利用できる力を、教育活動全体を通して身につけさせていく。
- ・家庭と連携し、生徒が主体的に自分の生活時間や健康をコントロールする力を身につけさせていく。
- ・校区内の小学校と連携し、読書活動の充実を図っていく。

【受検者数】 143 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。